

九州芸文館
(本館)
個別施設計画

施設類型	県民向け施設
整理番号	21
施設所管課	文化振興課

令和3年2月

❀福岡県❀

九州芸文館（本館）
個別施設計画

目次

第1章	概要	1
	(1) 対象施設の概要	
	(2) 対象施設の活用状況	
	(3) 計画期間	
	(4) 位置図等	
第2章	優先順位の考え方	3
	(1) 施設間の優先順位	
	(2) 施設内での優先順位	
	(3) その他	
第3章	個別施設の状態等	4
	(1) 個別施設の状態	
	(2) 施設の現存率	
	(3) 目標耐用年数	
第4章	対策の内容等	8
	(1) 改修・更新について	
	(2) 対策の平準化について	
	(3) 対策の内容等	

第1章 概要

(1) 対象施設の概要

対 象 施 設	九州芸文館		
所 管	人づくり・県民生活部文化振興課		
整 理 番 号	21	竣 工 年 度	平成 24 年度
所 在 地	福岡県筑後市大字津島 1131		
敷 地 面 積 (m ²)	33,178.04	建 築 面 積 (m ²)	4,624.40
主 構 造	R C、W	延 床 面 積 (m ²)	4,486.72
主 要 建 築 物	本館、アネックス1、アネックス2、資料館		

(2) 対象施設の活用状況

建 物 の 名 称	本館				
棟 番 ・ 枝 番	204	—	1	竣 工 年 度	平成 24 年度
建 築 面 積 (m ²)	4,624.40		延 床 面 積 (m ²)	3,657.04	
構 造 ・ 階 数	R C 造 地上 2 階				
各 階 面 積 及 び 用 途					
階 別	階 床 面 積 (m ²)	主 な 用 途 (室 名 他)			
2F	3,101.32	貸館(大交流室・教室工房1～5)、レストラン、事務室			
1F	555.72	貸館(教室攻防6)			

九州芸文館・本館は、平成 24 年度に竣工しました。芸術文化・体験・交流などさまざまな事業を展開し、公園や地域の魅力を発信することで、筑後地域の振興や発展に寄与・活用される事を目的として整備された地域とともに歩む芸術文化交流施設です。

(3) 計画期間

計画期間は令和 8 年度までとします。

(4) 位置図等

①位置図



②施設写真

全景



第2章 優先順位の考え方

(1) 施設間の優先順位

当該施設は、築8年で目標使用耐用年数である65年に満たないことから、計画期間中の更新は計画していません。

ただし、建築基準法改正により、吊天井（特定天井）の落下防止策を講じる必要があることから、安全性の確保を最優先とし、改修工事を実施します。

さらに、当該施設は多くの県民が利用する文化施設であることから、温湿度や照度等美術品に求められる適切な展示保存環境を整備し、文化施設としての機能向上を図ります。

(2) 施設内での優先順位

施設としては鉄筋コンクリート造りで、屋根・外壁等に石・金属・コンクリートなど、さまざまな材質を組み合わせた、アートな要素を取り入れた建物です。

建築基準法改正により、安全性確保のため、吊天井（特定天井）落下防止の改修を優先的に行います。また、文化施設としての機能向上を図るため、照明設備や空調設備の改修等、計画的に修繕を行っていきます。

(3) その他

敷地内には本館のほか、アネックス1、アネックス2、資料館があります。

第3章 個別施設の状態等

(1) 個別施設の状態

施設設備の不具合等が発見された場合には、事後保全による修繕を行っています。屋上防水に苔や汚れが見られます。

(2) 建物全体の現存率

現存率算定表

施設名称	九州芸文館		建物名称	本館				
所在地	筑後市大字津島1131		棟番・枝番	204	-	1	築年数	8年
建築年度	平成24年度	建築面積	4,624.40 m ²	現存率	98.0	想定耐用年数	65年	
構造・階数	RC 2	延面積	3,657.04 m ²					
区分	項目及び①評価比率(%)		仕様	経過年数	②各部位の現存率	①×②		
構造	躯体	40	RC	8	100.0	40.00		
	小計						40.00	
主要部 仕上げ	屋根・防水	20	その他	8	100.0	20.00		
	外壁	20	塗装、タイル、コンクリート、その他	8	100.0	20.00		
	小計						40.00	
電気設備	受変電設備	10		8	90.0	9.00		
	小計						9.00	
機械設備	給排水・衛生・給湯設備	10		8	90.0	9.00		
	小計						9.00	
合計						98.00		

この結果、九州芸文館の本館の現存率は、「98.0」となります。

○建物各部位の現存率

調査部位	種類・形式等	各部位の現存率	判定項目	判定
躯体	R C	100.0	耐震診断による Is 値 ¹	Is 値が 1.0 以上 もしくは新耐震基準
屋根	その他	100.0	防水層からの漏水 またはその痕跡	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
			防水層の劣化	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
			経年（新設もしくは改修後）	経年 10 年未満
外壁	塗装 タイル コンクリート その他	100.0	外壁のはく落、浮き、 ひび割れ等の劣化	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
			漏水の発生・痕跡の有無	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
内壁	石こうボード EP モルタル EP その他	100.0	劣化	・大交流室及び教室 工房 1・2 の特定 天井の改修が必要 ・仕上げ材等に劣化 が部分的に発生し ているが機能上問 題なし
天井	コンクリート打 放し 石こうボード EP	80.0		
床	ビニールシート 張り モルタル塗り その他	100.0		
建具	アルミ	100.0	劣化	特に問題なし
			開閉作動・取付け状態	特に問題なし
電灯・電話設備	—	00.0	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—
受変電設備	あり	90.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年以上
自家発電設備	自家発電設備	90.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年以上

¹ Is 値：構造耐震指標のことであり、この指標が大きくなると建築物の耐震性能が高くなることを意味する。

調査部位	種類・形式等	各部位の 現存率	判定項目	判定
動力設備	動力設備 中央監視制御	80.0	経年（新設後更新後）	経年5年以上
非常用照明・ 火災報知設備	非常用照明 火災報知設備	90.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年5年以上
その他設備	インターホン TV共同受信 防犯設備等 表示設備	80.0	経年（新設後更新後）	経年5年以上
空気調和・換 気・排煙設備	空気調和設備 冷熱源機器 温熱源機器 排煙設備	90.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年5年以上
給排水・衛 生・給湯設備	給排水設備 衛生設備 給湯設備	90.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年5年以上
消火設備	消火設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年10年未満
エレベーター 設備	エレベーター設 備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年10年未満

○その他の設備の状態

調査部位	種類・形式等	現在の状況
大交流室 照明設備	蛍光灯	・焦点調整等のために高所での作業が必要となり、操作者の安全性の確保に問題がある
大交流室	窓、床、壁	・東側窓及び西側開口部から日光が当たるため、美術品の管理維持に支障がある ・美術品展示にあたって、構成上デッドスペースが発生する ・フローリング床にキャスター痕あり
教室工房1	窓	・北側窓から日光が当たるため、美術品の管理維持に支障がある
教室工房2	窓	・ハイサイドライトから日光が当たるため、美術品の管理維持に支障がある
荷捌室	壁、扉	・教室工房1に外気が直接入り込むため、美術品の維持管理に支障がある

(3) 目標耐用年数

建築年	経年	耐震性能		鉄筋 腐食度	平均 圧縮強度	中性化 深さ	目標 耐用年数
		耐震基準	補強後の I S 値				
2012	8	新	—	—	—	—	65 年

築8年で建物の状態も良好であるため、九州芸文館(本館)の目標耐用年数を原則どおり65年(残年数を57年)と設定します。

第4章 対策の内容等

(1) 改修・更新について

築8年で耐用年数を65年と設定しているため、残利用年数は57年となり、計画期間に施設の更新（建替え）を行う予定はありません。

(2) 対策の平準化について

優先順位を選定のうえで費用や事務負担軽減等を図る観点から平準化を行い、順次改修を行うこととします。

まずは、建築基準法改正により、吊天井（特定天井）の落下防止策を講じる必要があることから、安全性の確保を最優先とし、改修工事を実施します。

さらに、温湿度や照度等美術品に求められる適切な展示保存環境を整備し、文化施設としての機能向上を図ります。

(3) 対策の内容等

以上の結果、計画期間内の取り組みは以下のとおりとなりますが、取り組みの進捗状況等を踏まえ、必要に応じて計画の見直しを行うことがあります。

(百万円)

区分	項目	実施時期			計
		令和2～3年度	令和4～5年度	令和6～8年度	
主要部仕上げ	屋根・防水、内 壁、天井、建具	67	6	0	73
電気設備	電灯・電話設備、 自家発電設備、動 力設備、非常用照 明・火災報知設 備、その他の設備	0	0	0	0
機械設備	給排水・給湯・ガ ス設備、空気調 和・排煙設備、消 火設備、エレベ ーター	0	2	0	2
その他	内部改修、園路舗 装	466	0	0	466
	計	533	9	0	542

※実際の予算や事業費等とは異なります。

九州芸文館
(アネックス 1)
個別施設計画

施設類型	県民向け施設
整理番号	21
施設所管課	文化振興課

令和3年2月

❀福岡県❀

九州芸文館(アネックス1)
個別施設計画

目次

第1章	概要	1
	(1) 対象施設の概要	
	(2) 対象施設の活用状況	
	(3) 計画期間	
	(4) 位置図等	
第2章	優先順位の考え方	3
	(1) 施設間の優先順位	
	(2) 施設内での優先順位	
	(3) その他	
第3章	個別施設の状態等	4
	(1) 個別施設の状態	
	(2) 施設の現存率	
	(3) 目標耐用年数	
第4章	対策の内容等	8
	(1) 改修・更新について	
	(2) 対策の平準化について	
	(3) 対策の内容等	

第1章 概要

(1) 対象施設の概要

対 象 施 設	九州芸文館		
所 管	人づくり・県民生活部文化振興課		
整 理 番 号	21	竣 工 年 度	平成 24 年度
所 在 地	福岡県筑後市大字津島 1131		
敷 地 面 積 (m ²)	33,178.04	建 築 面 積 (m ²)	4,624.40
主 構 造	R C、W	延 床 面 積 (m ²)	4,486.72
主 要 建 築 物	本館、アネックス1、アネックス2、資料館		

(2) 対象施設の活用状況

建 物 の 名 称	アネックス1				
棟 番 ・ 枝 番	204	—	2	竣 工 年 度	平成 24 年度
建 築 面 積 (m ²)	4,624.40		延 床 面 積 (m ²)	334.77	
構 造 ・ 階 数	R C 造 地上1階				
各 階 面 積 及 び 用 途					
階別	階床面積(m ²)	主 な 用 途 (室 名 他)			
1F	334.77	貸館(教室工房A・B)			

九州芸文館・アネックス1は、平成24年度に竣工しました。芸術文化・体験・交流などさまざまな事業を展開し、公園や地域の魅力を発信することで、筑後地域の振興や発展に寄与・活用される事を目的として整備された地域とともに歩む芸術文化交流施設で、本建物は移動美術館等のさまざまな展示や小規模な市民活動に利用できる施設です。

(3) 計画期間

計画期間は令和8年度までとします。

(4) 位置図等

①位置図



②施設写真

全景



第2章 優先順位の考え方

(1) 施設間の優先順位

当該施設は、築8年で目標使用耐用年数である65年に満たないことから、計画期間中の更新は計画していませんが、平成30年度に受検した消防点検の結果、カーテンの素材が防災素材でないため、交換が必要となっています。利用者の安全確保の観点から、優先的に改善を図る必要があります。

(2) 施設内での優先順位

施設としては鉄筋コンクリート造りによる建物で、外壁をガラス張りとした、森の中に溶け込んだ市民ギャラリーをイメージした建物です。

消防点検において助言された事項を改善するため、優先的に改善を図る必要があります。

(3) その他

敷地内には、アネックス1のほか、本館、アネックス2、資料館があります。

第3章 個別施設の状態等

(1) 個別施設の状態

一部配線の目地材に劣化が見られますが、全体的に良好な状態です。

(2) 建物全体の現存率

現存率算定表

施設名称	九州芸文館		建物名称	アネックス1				
所在地	筑後市大字津島1131		棟番・枝番	204	-	2	築年数	8年
建築年度	平成24年度	建築面積	4,624.40 m ²		現存率	98.0	想定耐用年数	65年
構造・階数	RC 1	延面積	334.77 m ²					
区分	項目及び①評価比率(%)		仕様	経過年数	②各部位の現存率		①×②	
構造	躯体	40	RC	8	100.0		40.00	
	小計							40.00
主要部 仕上げ	屋根・防水	20	塗膜防水	8	100.0		20.00	
	外壁	20	その他	8	100.0		20.00	
	小計							40.00
電気設備	受変電設備	10		8	90.0		9.00	
	小計							9.00
機械設備	給排水・衛生・給湯設備	10		8	90.0		9.00	
	小計							9.00
合計							98.00	

この結果、九州芸文館のアネックス1の現存率は、「98.0」となります。

○建物各部位の現存率

調査部位	種類・形式等	各部位の現存率	判定項目	判定
躯体	R C	100.0	耐震診断による Is 値 ²	Is 値が 1.0 以上 もしくは新耐震基準
屋根	塗膜防水	100.0	防水層からの漏水 またはその痕跡	—
			防水層の劣化	—
			経年（新設もしくは改修後）	経年 10 年未満
外壁	その他	100.0	外壁のはく落、浮き、 ひび割れ等の劣化	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
			漏水の発生・痕跡の有無	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
内壁	その他	100.0	劣化	仕上げ材等の劣化が部分的に発生しているが機能上問題なし
天井	コンクリート打放し その他	100.0		
床	その他	80.0		
建具	アルミ	100.0	劣化	特に問題なし
			開閉作動・取付け状態	特に問題なし
電灯・電話設備	電灯設備 電気時計 拡声設備 避雷設備 電話設備	90.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年以上
受変電設備	あり	90.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年以上
自家発電設備	—	00.0	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—
動力設備	—	00.0	経年（新設後更新後）	—

² Is 値：構造耐震指標のことであり、この指標が大きくなると建築物の耐震性能が高くなることを意味する。

調査部位	種類・形式等	各部位の 現存率	判定項目	判定
非常用照明・ 火災報知設備	非常用照明 火災報知設備	90.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年5年以上
その他設備	インターホン TV共同受信 防犯設備等 表示設備	80.0	経年（新設後更新後）	経年5年以上
空気調和・換 気・排煙設備	空気調和設備 冷熱源機器 温熱源機器 排煙設備	90.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年5年以上
給排水・衛 生・給湯設備	給排水設備 水槽 給湯設備	90.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年5年以上
消火設備	消火設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年10年未満
エレベーター 設備	—	00.0	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—
その他	カーテン	—	定期点検等の結果	カーテン素材が防災 素材でないため、交 換が必要

(3) 目標耐用年数

建築年	経年	耐震性能		鉄筋 腐食度	平均 圧縮強度	中性化 深さ	目標 耐用年数
		耐震基準	補強後の I S 値				
2012	8	新	—	—	—	—	65 年

築 8 年で建物の状態も良好であるため、九州芸文館（アネックス 1）の目標耐用年数を原則どおり 65 年（残年数を 57 年）と設定します。

第4章 対策の内容等

(1) 改修・更新について

築8年で耐用年数を65年と設定しているため、残利用年数は57年となり、計画期間に施設の更新（建替え）を行う予定はありません。

(2) 対策の平準化について

優先順位を選定の上で費用や事務負担軽減等を図る観点から平準化を行い、順次必要な改修を行うこととします。

まずは、利用者の安全確保の観点から、使用しているカーテンを防災素材のものに交換します。

(3) 対策の内容等

以上の結果、計画期間内の取り組みは以下のとおりとなりますが、取組みの進捗状況等を踏まえ、必要に応じて計画の見直しを行うことがあります。

(百万円)

区分	項目	実施時期			計
		令和2～3年度	令和4～5年度	令和6～8年度	
主要部仕上げ	屋根・防水、内 壁、天井、建具	0	0	0	0
電気設備	電灯・電話設備、 自家発電設備、動 力設備、非常用照 明・火災報知設 備、その他の設備	0	0	0	0
機械設備	給排水・給湯・ガ ス設備、空気調 和・排煙設備、消 火設備、エレベ ーター	0	0	0	0
その他	カーテン	0	1	0	1
	計	0	1	0	1

※実際の予算や事業費等とは異なります。

九州芸文館
(アネックス2)
個別施設計画

施設類型	県民向け施設
整理番号	21
施設所管課	文化振興課

令和3年2月

❀福岡県❀

九州芸文館（アネックス2）
個別施設計画

目次

第1章	概要	1
	(1) 対象施設の概要	
	(2) 対象施設の活用状況	
	(3) 計画期間	
	(4) 位置図等	
第2章	優先順位の考え方	3
	(1) 施設間の優先順位	
	(2) 施設内での優先順位	
	(3) その他	
第3章	個別施設の状態等	4
	(1) 個別施設の状態	
	(2) 施設の現存率	
	(3) 目標耐用年数	
第4章	対策の内容等	8
	(1) 改修・更新について	
	(2) 対策の平準化について	
	(3) 対策の内容等	

第1章 概要

(1) 対象施設の概要

対 象 施 設	九州芸文館		
所 管	人づくり・県民生活部文化振興課		
整 理 番 号	21	竣 工 年 度	平成 24 年度
所 在 地	福岡県筑後市大字津島 1131		
敷 地 面 積 (m ²)	33,178.04	建 築 面 積 (m ²)	4,624.40
主 構 造	R C	延 床 面 積 (m ²)	4,486.72
主 要 建 築 物	本館、アネックス1、アネックス2、資料館		

(2) 対象施設の活用状況

建 物 の 名 称	アネックス2				
棟 番 ・ 枝 番	204	—	3	竣 工 年 度	平成 24 年度
建 築 面 積 (m ²)	4,624.40		延 床 面 積 (m ²)	165.51	
構 造 ・ 階 数	W造 地上1階				
各 階 面 積 及 び 用 途					
階別	階床面積(m ²)	主 な 用 途 (室 名 他)			
1F	165.51	貸館(教室工房C)			

九州芸文館・アネックス2は、平成24年に竣工しました。芸術文化・体験・交流などさまざまな事業を展開し、公園や地域の魅力を発信することで、筑後地域の振興や発展に寄与・活用される事を目的として整備された地域とともに歩む芸術文化交流施設で、本建物は陶芸を中心とした教室工房と作業室を備えています。

(3) 計画期間

計画期間は令和8年度までとします。

(4) 位置図等

①位置図



②施設写真

全景



第2章 優先順位の考え方

(1) 施設間の優先順位

当該施設は、築8年で目標使用耐用年数である65年に満たないことから、計画期間中の更新は計画していません。

今後、施設設備の不具合等が発見された場合には、利用者の安全確保等、目的に応じて改善を図ることとします。

(2) 施設内での優先順位

施設としては木造による建物で、外壁や梁には八女杉による集成材を用い、公園に開かれたオーガニックな工房棟をイメージしています。

今後、施設設備の不具合等が発見された場合には、利用者の安全確保等、目的に応じて改善を図ることとします。

(3) その他

敷地内にはアネックス2のほか、本館、アネックス1、資料館があります。

第3章 個別施設の状態等

(1) 個別施設の状態

一部シーリング材に劣化が見られますが、全体的に良好な状態です。

(2) 建物全体の現存率

現存率算定表

施設名称	九州芸文館		建物名称	アネックス2				
所在地	筑後市大字津島1131		棟番・枝番	204	-	3	築年数	8年
建築年度	平成24年度	建築面積	4,624.40 m ²		現存率	98.0	想定耐用年数	65年
構造・階数	W 1	延面積	165.51 m ²					
区分	項目及び①評価比率(%)		仕様	経過年数	②各部位の現存率		①×②	
構造	躯体	40	W	8	100.0		40.00	
	小計							40.00
主要部 仕上げ	屋根・防水	20	その他	8	100.0		20.00	
	外壁	20	その他 H26 外壁洗浄・塗装	4	100.0		20.00	
	小計							40.00
電気設備	受変電設備	10		8	90.0		9.00	
	小計							9.00
機械設備	給排水・衛生・給湯設備	10		8	90.0		9.00	
	小計							9.00
合計							98.00	

この結果、九州芸文館のアネックス2の現存率は、「98.0」となります。

○建物各部位の現存率

調査部位	種類・形式等	各部位の現存率	判定項目	判定
躯体	W	100.0	耐震診断による Is 値 ³	Is 値が 1.0 以上 もしくは新耐震基準
屋根	その他	100.0	防水層からの漏水 またはその痕跡	—
			防水層の劣化	—
			経年（新設もしくは改修後）	経年 10 年未満
外壁	その他	100.0	外壁のはく落、浮き、 ひび割れ等の劣化	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
			漏水の発生・痕跡の有無	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
内壁	その他	100.0	劣化	特に問題なし
天井	コンクリート打放し その他	100.0		
床	その他	100.0		
建具	アルミ	100.0	劣化	特に問題なし
			開閉作動・取付け状態	特に問題なし
電灯・電話設備	電灯設備 電気時計 拡声設備 避雷設備 電話設備	90.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年以上
受変電設備	あり	90.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年以上
自家発電設備	—	00.0	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—
動力設備	—	00.0	経年（新設後更新後）	—

³ Is 値：構造耐震指標のことであり、この指標が大きくなると建築物の耐震性能が高くなることを意味する。

調査部位	種類・形式等	各部位の 現存率	判定項目	判定
非常用照明・ 火災報知設備	非常用照明 火災報知設備	90.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年5年以上
その他設備	インターホン TV共同受信 防犯設備等 表示設備	80.0	経年（新設後更新後）	経年5年以上
空気調和・換 気・排煙設備	空気調和設備 冷熱源機器 温熱源機器 排煙設備	90.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年5年以上
給排水・衛 生・給湯設備	給排水設備 水槽 給湯設備	90.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年5年以上
消火設備	消火設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年10年未満
エレベーター 設備	—	00.0	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—

(3) 目標耐用年数

建築年	経年	耐震性能		鉄筋 腐食度	平均 圧縮強度	中性化 深さ	目標 耐用年数
		耐震基準	補強後の I S 値				
2012	8	新	—	—	—	—	65 年

築8年で建物の状態も良好であるため、九州芸文館(アネックス2)の目標耐用年数を原則どおり65年(残年数を57年)と設定します。

第4章 対策の内容等

(1) 改修・更新について

築8年で耐用年数を65年と設定しているため、残利用年数は57年となり、計画期間に施設の更新（建替え）を行う予定はありません。

(2) 対策の平準化について

今後、施設設備の不具合等が発見された場合には、利用者の安全確保等、目的に応じて優先順位を選定の上で費用や事務負担軽減等を図る観点から平準化を行い、順次必要な改修を行うこととします。

(3) 対策の内容等

以上の結果、計画期間内の取り組みは以下のとおりとなりますが、取り組みの進捗状況等を踏まえ、必要に応じて計画の見直しを行うことがあります。

(百万円)

区分	項目	実施時期			計
		令和2～3年度	令和4～5年度	令和6～8年度	
主要部仕上げ	屋根・防水、内 壁、天井、建具	0	0	0	0
電気設備	電灯・電話設備、 自家発電設備、動 力設備、非常用照 明・火災報知設 備、その他の設備	0	0	0	0
機械設備	給排水・給湯・ガ ス設備、空気調 和・排煙設備、消 火設備、エレベ ーター	0	0	0	0
その他	外構	0	0	0	0
	計	0	0	0	0

※実際の予算や事業費等とは異なります。

九州芸文館
(資料館)
個別施設計画

施設類型	県民向け施設
整理番号	21
施設所管課	文化振興課

令和3年2月

❀福岡県❀

九州芸文館（資料館）
個別施設計画

目次

第1章	概要	1
	(1) 対象施設の概要	
	(2) 対象施設の活用状況	
	(3) 計画期間	
	(4) 位置図等	
第2章	優先順位の考え方	3
	(1) 施設間の優先順位	
	(2) 施設内での優先順位	
	(3) その他	
第3章	個別施設の状態等	4
	(1) 個別施設の状態	
	(2) 施設の現存率	
	(3) 目標耐用年数	
第4章	対策の内容等	8
	(1) 改修・更新について	
	(2) 対策の平準化について	
	(3) 対策の内容等	

第1章 概要

(1) 対象施設の概要

対 象 施 設	九州芸文館		
所 管	人づくり・県民生活部文化振興課		
整 理 番 号	204	竣 工 年 度	平成 24 年度
所 在 地	福岡県筑後市大字津島 1131		
敷 地 面 積 (m ²)	33,178.04	建 築 面 積 (m ²)	4,624.40
主 構 造	R C、W	延 床 面 積 (m ²)	4,486.72
主 要 建 築 物	本館、アネックス1、アネックス2、資料館		

(2) 対象施設の活用状況

建 物 の 名 称	資料館				
棟 番 ・ 枝 番	204	—	4	竣 工 年 度	平成 25 年度
建 築 面 積 (m ²)	4,624.40		延 床 面 積 (m ²)	329.40	
構 造 ・ 階 数	R C 造 地上 2 階				
各 階 面 積 及 び 用 途					
階 別	階 床 面 積 (m ²)	主 な 用 途 (室 名 他)			
2F					
1F					

九州芸文館の資料館は、平成 25 年度に竣工しました。芸術文化・体験・交流などさまざまな事業を展開し、公園や地域の魅力を発信することで、筑後地域の振興や発展に寄与・活用される事を目的として整備された地域とともに歩む芸術文化交流施設で、本建物は本館に付随する会議室や資料庫等を備えた建物となります。

(3) 計画期間

計画期間は令和 8 年度までとします。

(4) 位置図等

①位置図



②施設写真

全景



第2章 優先順位の考え方

(1) 施設間の優先順位

当該施設は、築7年で目標使用耐用年数である65年に満たないことから、計画期間中の更新は計画していません。

今後、施設設備の不具合等が発見された場合には、利用者の安全確保等、目的に応じて改善を図ることとします。

(2) 施設内での優先順位

施設としては鉄筋コンクリート造りによる建物です。

今後、施設設備の不具合等が発見された場合には、利用者の安全確保等、目的に応じて改善を図ることとします。

(3) その他

敷地内には資料館のほか、本館、アネックス1、アネックス2があります。

第3章 個別施設の状態等

(1) 個別施設の状態

構造物基礎に苔や汚れがあるものの、外装に劣化はなく全体的に良好な状態です。

(2) 建物全体の現存率

現存率算定表

施設名称	九州芸文館		建物名称	資料館				
所在地	筑後市大字津島1131		棟番・枝番	204	-	4	築年数	7年
建築年度	平成25年度	建築面積	4,624.40 m ²		現存率	98.0	想定耐用年数	65年
構造・階数	RC 2	延面積	329.40 m ²					
区分	項目及び①評価比率(%)		仕様	経過年数	②各部位の現存率		①×②	
構造	躯体	40	RC	7	100.0		40.00	
	小計							40.00
主要部 仕上げ	屋根・防水	20	その他	7	100.0		20.00	
	外壁	20	コンクリート	7	100.0		20.00	
	小計							40.00
電気設備	受変電設備	10		7	90.0		9.00	
	小計							9.00
機械設備	給排水・衛生・給湯設備	10		7	90.0		9.00	
	小計							9.00
合計							98.00	

この結果、九州芸文館の資料館の現存率は、「98.0」となります。

○建物各部位の現存率

調査部位	種類・形式等	各部位の現存率	判定項目	判定
躯体	R C	100.0	耐震診断による Is 値 ⁴	Is 値が 1.0 以上 もしくは新耐震基準
屋根	その他	100.0	防水層からの漏水 またはその痕跡	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年 未満
			防水層の劣化	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年 未満
			経年（新設もしくは改 修後）	経年 10 年未満
外壁	コンクリート	100.0	外壁のはく落、浮き、 ひび割れ等の劣化	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年 未満
			漏水の発生・痕跡の有 無	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 新築・改修 10 年 未満
内壁	石こうボード EP	100.0	劣化	特に問題なし
天井	コンクリート打 放し 化粧石こうボ ード	100.0		
床	タイル貼り ビニール床タ イル張り ビニールシ ート 張り その他	100.0		
建具	アルミ	100.0	劣化	特に問題なし
			開閉作動・取付け状態	特に問題なし
電灯・電話設 備	電灯設備 電気時計 拡声設備 避雷設備 電話設備	90.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年以上
受変電設備	あり	90.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年以上
自家発電設備	—	00.0	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—

⁴ Is 値：構造耐震指標のことであり、この指標が大きくなると建築物の耐震性能が高くなることを意味する。

調査部位	種類・形式等	各部位の 現存率	判定項目	判定
動力設備	—	—	経年（新設後更新後）	—
非常用照明・ 火災報知設備	非常用照明 火災報知設備	90.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年5年以上
その他設備	インターホン TV共同受信 防犯設備等 表示設備	80.0	経年（新設後更新後）	経年5年以上
空気調和・換 気・排煙設備	空気調和設備 冷熱源機器 温熱源機器 排煙設備	90.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年5年以上
給排水・衛 生・給湯設備	給排水設備 水槽 給湯設備	90.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年5年以上
消火設備	消火設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年10年未満
エレベーター 設備	エレベーター設 備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年10年未満

(3) 目標耐用年数

建築年	経年	耐震性能		鉄筋 腐食度	平均 圧縮強度	中性化 深さ	目標 耐用年数
		耐震基準	補強後の I S 値				
2013	7	新	—	—	—	—	65 年

築7年で建物の状態も良好であるため、九州芸文館(資料館)の目標耐用年数を原則どおり65年(残年数を58年)と設定します。

第4章 対策の内容等

(1) 改修・更新について

築7年で耐用年数を65年と設定しているため、残利用年数は58年となり、計画期間に施設の更新（建替え）を行う予定はありません。

(2) 対策の平準化について

今後、施設設備の不具合等が発見された場合には、利用者の安全確保等、目的に応じて優先順位を選定の上で費用や事務負担軽減等を図る観点から平準化を行い、改善を図ることとします。

(3) 対策の内容等

以上の結果、計画期間内の取り組みは以下のとおりとなりますが、取り組みの進捗状況等を踏まえ、必要に応じて計画の見直しを行うことがあります。

(百万円)

区分	項目	実施時期			計
		令和2～3年度	令和4～5年度	令和6～8年度	
主要部仕上げ	屋根・防水、内壁、天井、建具	0	0	0	0
電気設備	電灯・電話設備、自家発電設備、動力設備、非常用照明・火災報知設備、その他の設備	0	0	0	0
機械設備	給排水・給湯・ガス設備、空気調和・排煙設備、消火設備、エレベーター	0	0	0	0
その他	外構	0	0	0	0
	計	0	0	0	0

※実際の予算や事業費等とは異なります。